

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見提出

| | |
|-------|----------|
| 意見提出元 | 東京電力株式会社 |
|-------|----------|

| 意見項目 | 意見内容 |
|--|--|
| (1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど） | ワイヤレスブロードバンドについては、今後ますますの高速・大容量化、ネットワーク接続の増加等により、様々な分野での利用が期待される。 |
| (2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備） | ワイヤレスブロードバンドは様々な分野での利用が期待されている。一方、電気事業においては、電力の安定かつ効率的な供給を確保するため、重要通信回線の確保、耐災害性の観点から無線通信を活用しており、今後より一層、その役割、重要性は高まっていくことが想定される。検討にあたっては、公益事業における無線通信の利用にも配慮をお願いしたい。 |
| (3) 関連する国内外の動向と課題 | <p>米国「国家ブロードバンド計画」(The National Broadband Plan)では、世界一のワイヤレスブロードバンド環境の整備のため、2020年までに500MHz幅の周波数を新たに利用可能とすべきという目標を掲げるとともに、公益事業者が専用の無線回線を利用可能とするよう勧告を発している。</p> <p>また、米国IEEEにおいてスマート・ユーティリティ・ネットワーク(SUN)用として800/900MHz帯について、各国の相互運用性を考慮した標準化作業が進展しており、国内での利活用も有望視されている。</p> |
| (4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項 | |